

絵日記を描こう！ NO.1



・自分だけの絵本を作ろう！

一歳半頃になると、絵や写真に興味を持ち始め、指をさしたり、同じ物を持ってきたりします。お子さんが経験したことや印象に残った日常の出来事を絵にしたり、写真を貼ってあげたりしましょう。これが絵日記の始まりです。“お子さんが主人公になる絵本📖”だと思って、楽しく取り組んでみてください。この時期は、自分の経験したことを、親御さんと共感し合うことが大切です！

<描き方のポイント>：

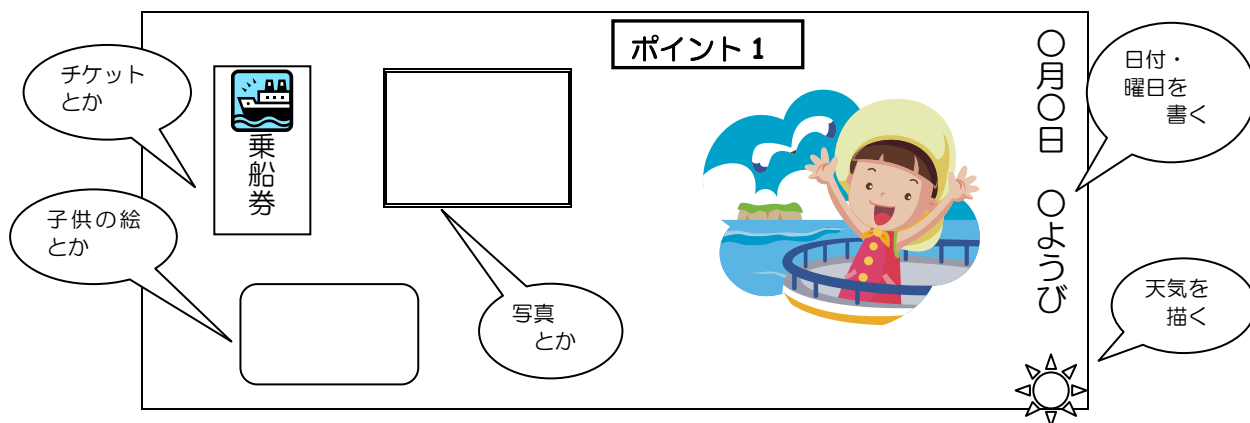
- スケッチブックは各自用意しましょう。
 - ✧ 大きさは B5 が持ち運びに便利で見やすいですが、自分が描きやすい大きさのスケッチブックや製作などを保管しやすいフォルダーにしてもかまいません。
- 個人セラピーを受けている場合にはセラピーに持参しましょう。
 - ✧ ただしセラピー時間に扱えない日もあります。
- スケッチブックが 1 冊終わった時点で、一度、指導者に提出をしましょう。
 - ✧ 絵日記全体のアドバイスをすることができます。
- 縦書きを基本とした場合は、右から始めましょう。
 - ✧ 大きさ同様に、自分が扱いやすいようにしておきましょう。
- 見開きの場合、右側には親御さんが絵を描き、左側には写真やパンフレット、お子さんが描いた絵などを貼ってあげたりしましょう。
- 日付とお天気は必ず記入しましょう（縦書き）。
 - ✧ 日付やお天気を扱うよい機会となります。特に初期でもお天気は扱えます。「キラキラお日様見えだね」「もくもく、くもりだったね」など。
 - ✧ お天気を一緒に描いても楽しいですね。
- なるべく輪郭ははっきりと描きましょう。
 - ✧ 輪郭がはっきりしている方がお子さんにも見やすいです。
- できるだけ色をぬっておきましょう。
 - ✧ 色がぬってある方がお子さんは楽しく見ることができます。

- ✦ 描いた絵日記は、必ずお子さんに見せて、親子で楽しくお話をしましょう。
- ✦ なるべく時間を置かず、記憶が新しいうちに扱きましょう。
- ✦ 一緒に絵を描きながらお話しすることもできます。きれいに丁寧に描くことが目的ではありません。
- ✦ セラピーで扱う際には、親子で扱ったページを扱うようにしています。

【例】絵日記を右側、縦書きで開始し、見開き右側に絵を左側にその他とした場合

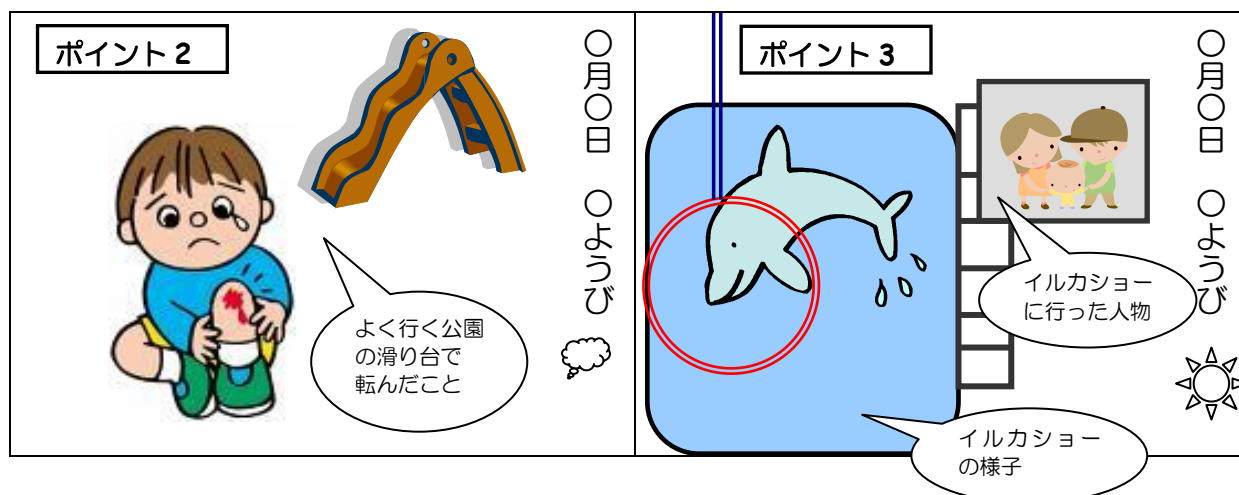
🌈 ポイント 1： 外出時の写真やパンフレットなどを有効活用

お出かけをした時やいつもと違う経験をした時は、それを絵に描いてあげることでより印象に残ると思います。写真・パンフレット・チケットなども上手に活用し、見開きの左側に貼ってあげましょう。



🌈 ポイント 2： 日常のことも扱う

何か特別なことをしたりしなくても、お子さんは日々いろいろな経験をしています。楽しかったこと、嫌だったこと、ビックリしたことなどの中からお子さんにとって最も印象に残っているであろう出来事を絵にして残してあげましょう。



🌈 ポイント 3： 場面と登場人物を両方扱う

この時期は、たくさんの場面を描くのではなく、印象に残った場面を一つ描いてみてください。場面の中には必ず、①お子さん自身、②一緒にいた人物（ママ・パパ・兄弟・お友達）を描くよう心がけましょう。

例えば、『いるかショー』を見に行った場合、いるかショーの様子を描くだけでなく、それを見ているお子さん自身と一緒にいた人物も描いておくことで、「自分が参加した」「自分が見た」ということが一目で分かり、興味を持ちやすいでしょう。